



平成22年度 東北農政局長賞

新住民や後継者が住みたい地域へ〜りんごと郷土芸能によるむらづくり〜

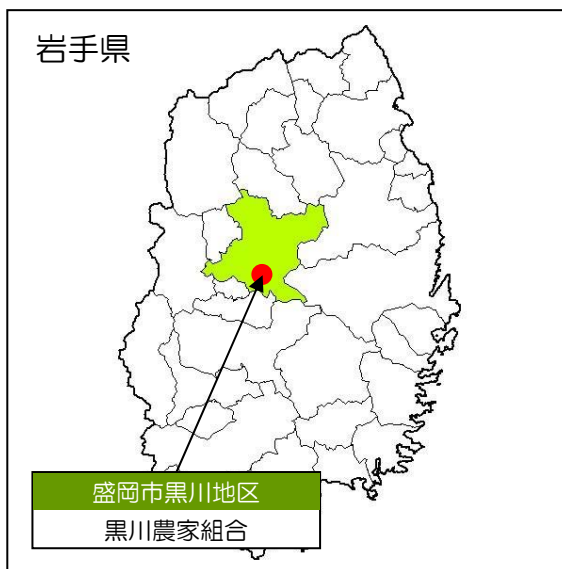
『黒川農家組合』

(岩手県盛岡市 黒川地区)

【むらづくりの経緯・動機等】

◆黒川地区は、盛岡市を流れる北上川流域南部の東岸に位置し、古くから平坦地では水稻栽培、傾斜地では果樹栽培が行われている。◆かつては純農村地域であったが、宅地開発や主要国道とのアクセス向上により、急激に非農家世帯が増加した。◆このような急激な都市化の進展により、農薬散布や農作業の騒音等の問題の発生、地域コミュニティ活動の停滞など、新たな問題を抱えることとなった。◆これらの問題に対し、新しく何かを始めるのではなく、農家が昔から取り組んできた地域活動に非農家世帯の参画を呼びかけることにより解決を図ることとし、黒川農家組合の組合員が中心となり、郷土芸能の伝承活動や共有林の保全活動などを実施してきた。◆これらの活動を通して相互理解が深まり、新たな地域行事が始まるなど、住民が一体となりながら、地域の活性化に向けた取組みを展開している。

<位置図>



【推進体制】

◆「黒川農家組合」が中心となり、地区の特産品であるりんごの生産を手がける「北乙部農業生産組合」、農地・水・環境保全向上対策を活用して地域資源の保全・管理を進める「黒川地域環境保全推進協議会」、新たな特産品づくりに取り組む「藍の会」といったそれぞれの組織が役割分担しながら活動している。◆郷土芸能継承団体や自治活動組織とも連携をとりながら、多面的な活動を展開しており、非農家も含めて地域一体となったむらづくりを行っている。

<地区の概要>

事 項	内 容
地区の規模	大字単位の集団（3集落）
組織の性格	機能的な集団
農 家 率 (内訳)	7.1 % (総世帯数 986 戸) (農家数 70 戸)
販売農家数 (内訳)	55 戸 (専業農家 9 戸) (1種兼農家 13 戸) (2種兼農家 33 戸)
主要作目 (作付面積)	水稻 (2,060 ha) りんご (526 ha) 野菜 (- ha)

資料：国勢調査、農林業センサス、作物統計調査(H17年)

※作付面積は盛岡市全体のデータ

【農業生産面への寄与状況】



◆主力品目であるりんごについて、地区全体の栽培技術向上に努めた結果、地場市場から「黒川りんご」と呼ばれ、高い評価を得ている。また、若手生産者の育成・確保にも努めており、脱サラして就農する事例も多い。◆また、りんごの栽培技術を活かし、女性農業者を中心としてブルーベリーの生産や加工品の開発に取り組んでおり、

県内でもトップクラスの生産地となっている。さらに、ハーブを活用した害虫防除の研究にも取り組み、高い評価を得ている。◆このほか、盛岡市内でいち早く耕作放棄地解消対策に取組み、農業委員と連携しながら担い手に農地を集積し、わい化りんごの定植を実施するなど、精力的に取り組んでいる。

【生活・環境整備面への寄与状況】

◆「黒川さんさ踊り」と「黒川田植踊り」の二つの郷土芸能について、地区の子どもたちへ伝承活動を行っているほか、全国にいる多くの愛好者を招待し、合同練習会を開催するなど、世代間・地域間を越えた交流の機会となっている。◆また、地域資源であるりんごを活用して平成11年から始まった「りんご畑 de コンサート」は、これ



までの10年間で5回開催され、農家と地域住民、都市住民との交流の場として、地区を代表するイベントとなっている。◆さらに、地区内で郷土芸能の伝承活動を行っている農家が、土蔵を改築した宿泊施設を開設し、農村生活を体験できる機会を提供しており、海外からも体験者が訪れるなど、国際的な交流にも発展している。